

会 議 要 旨

(1 / 4)

会議の名称	第2回川越市国際化基本計画審議会
開催日時	令和7年9月30日(月) 午後2時00分 開会 ・ 午後3時10分 閉会
開催場所	川越市役所 7B会議室
議長(委員長・会長)氏名	会長 助川泰彦
出席者(委員)氏名(人数)	藤長晴栄、宮坂雄悟、伊藤康子、焦雁、李秀娥、田口裕子 (6人)
欠席者(委員)氏名(人数)	齊藤英一郎、本多英視(2人)
事務局職員職氏名	文化スポーツ部長 奥富和也、国際文化交流課長 福田純子 副課長 都所聡子、副課長 島居恭子、主任 泉名元樹
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長挨拶</li> <li>3 報告             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第五次川越市国際化基本計画の進捗状況について</li> </ol> </li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 川越市国際化基本計画素案について</li> <li>(2) 川越市国際化基本計画の施策(案)について</li> </ol> </li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol>
配布資料	<p>【資料1-1】第五次川越市国際化基本計画令和6年度評価一覧</p> <p>【資料1-2】第五次川越市国際化基本計画事業点検シート</p> <p>【資料2】第六次川越市国際化基本計画素案</p> <p>【資料3】第五次川越市国際化基本計画の事業と第六次川越市国際化基本計画の事業案</p> <p>【資料4】第六次川越市国際化基本計画事業案</p>

## 議 事 の 経 過

## 1 開会

## 2 会長挨拶

日本語教育関連の研究をして40年以上になる。昭和60年代当時、日本語教育学会で扱っている対象者はほとんどが留学生であったが、1990年代には労働者、過去10年で定住者の子どもが扱われるようになってきた。大学にも家庭の事情で中学生のときに日本に来た学生が多くいる。

十数年前に「移動する子どもたち」がどのような人生を送るのか、母語を保持するのか、忘れるのか、どのように日本語を学ぶのかという研究があったが、最近では「移動させられる子どもたち」という研究発表もある。留学や仕事、国際結婚で日本に来る方は自分の意思で来ているが、一緒に来る子どもたちは自分の意思ではなく家庭の事情で来る。これまで自国で積み重ねてきた能力が無力化し、大変な苦勞をして大学に進学している方もいるが、中にはうまくいかない方もいる。それを支えるため、日本語教育やコンサルティングなどのサポートが求められている。

今後ますます外国人が増加することは確実で、状況は加速度的に変化している。川越市の多文化共生社会を進める大切な計画なので、活発な議論をお願いしたい。

## 3 報告

## (1) 第五次川越市国際化基本計画の進捗状況について

事務局から、資料1-1及び資料1-2により説明があった。委員からの質疑等はなかった。

## 4 議事

## (1) 川越市国際化基本計画素案について

事務局から、資料2により説明があった。主な意見及び質疑は次のとおりである。

- 国際交流センターの名称は検討の余地がある。生活オリエンテーション等の実施、日本語ボランティアの育成などは、NPOが一括してできるのではないかと。国際交流センターがどのように使われ、どのような機能があるのかを知ってもらい、施策につなげていけば、効率的に事業ができるのではないかと。

⇒国際交流センターでは、週4日12コマの日本語教室をNPO法人やボランティア団体と協働で行っているほか、外国籍市民相談も行っている。引き続き関係団体と連携して本市の多文化共生を推進していきたい。

## 議 事 の 経 過

- 国際交流センターの日本語教室から課題を吸い上げ、それを解決するための施策が必要である。  
⇒現在、第一線で生活オリエンテーションを担っている方がどのようなことをしているか、情報収集をしながら、連携してやっていきたい。
- 以前はビザに関する相談が多かったが、現在は子どもに関する相談も多い。高校を受験する子どもにとって、日本語教室は助けになる。国際交流センターの名称については馴染みがあり、外国籍市民にも伝わるので、名称は変えないほうがよい。
- 留学生が増えており、大学としても交流だけではなく、大学生活のサポートを行っている。
- 留学生にとって、市の情報を得るのが難しい。大学の先生が大学生活や普段の生活のサポートを行っているが、先生も市の情報については詳しくない。国際交流センターを知らなかったので、情報を提供してくれると助かる。
- 留学生に対する施策は、何かあるか。  
⇒市のホームページに掲載しただけでは情報が届きにくいので、大学等と連携を図り、市の情報を周知していきたい。
- 日本人市民でも国際交流センターや事業について知らないなので、日本人市民の理解を得るところから始める必要がある。
- 外国籍の方に情報が届かないのが課題である。外国籍市民向けのパンフレットを置いて、置いていることを周知するのが難しい。
- 市から留学生への情報発信は、InstagramなどのSNSでもよいし、外国籍市民専用のアプリを作ればよいと思う。大学に知らせてもらえれば、大学から留学生に知らせがくる。
- 転入手続きの際に市が配布するごみの出し方などのパンフレットは、日本に来たばかりで読んでも分からないので、そのままになっている。
- 市内で就職したい留学生もいるので、市、大学、企業が連携するとよい。

## 議 事 の 経 過

- ホームページの存在は知っていても、情報にたどり着くまでの支援が必要で、日本語教室のボランティアが支援している。
- 川越市のホームページに翻訳機能があるが、自分の言語で情報にたどり着くのは難しい。
- 外国籍の方に情報の入手方法についてのアンケートを行い、数百人から回答をもらったが、Xは誰もいなく、ロコミが意外と多かった。見ている媒体と見ていない媒体があるので、どこに情報を載せるか見極めが大切である。
- 外国人観光客は、皆、アプリではなく紙の地図を持っている。紙のほうが見やすいので効果がある。

## (2) 川越市国際化基本計画の施策（案）について

資料3及び資料4により説明があった。委員からの質疑・意見等は次のとおりである。

- 生活オリエンテーションは市が実施するのか。  
⇒ 日本語教室等での実施に加え、次期計画では市主催の生活オリエンテーションも実施したい。
- マニュアルさえあれば日本語教室でも生活オリエンテーションはできる。市が行うのは効率的ではない。

## 5 その他

事務局から、第3回川越市国際化基本計画審議会は10月27日（月）午後2時に開催し、計画原案について協議をいただく予定である旨の連絡があった。

## 6 閉会